2022 年度ＧＴセミナー
GT サミット 2022④

第２９０号　２０２２年９月１９日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ　奥山卓矢

GT サミット④

２０２２年８月 22 日～23 日に「GT サミット 2022」を開催しました。

全国の GT 園の園長先生方にご参加頂きました。
数年ぶりにお会いする園長先生方同士の歓喜の声も会場では聞かれました。

本誌含め、４回に分けて GT サミット 2022 の内容をお送りする最終回です。

【セミナープログラム】

８月 22 日（月）セミナー1 日目

13:30～15:30　阿久津先生 ご講演
15:30～15:50　休憩
15:50～17:50　藤森代表 ご講演
18:00　　１日目終了

８月 23 日（火）セミナー2 日目

9:30～11:30　リレー講演
11:30～13:00　昼食
13:00～15:00　Q&A
15:00　　２日目終了

GT サミット 2022「Q&A」

保育環境研究所ギビングツリー代表　藤森平司氏（新宿せいが子ども園　園長）

保育環境セミナーのプログラムでお馴染みの「Q&A」を GT サミット版として実施しました。
参加者の皆様から寄せられた質問に対して、総合的にお答えいただきました。

目次

—食について—
—人類の特徴から考える保育—
—イノベーション会議から考える保育—

—食について—

いくつか質問見させて頂いたが、なんか答えられるか自信がないので、それに関係する動画があるので、それをお見せします。最初は早送りにするかもしれません。給食のことで質問があったが、今学校でこういうことがある。全ては見せれないので、飛ばし、飛ばし見せます。冷凍の取り組みがあるのでビデオを見たいと思います。急速冷凍で 1 年を保つ条件がありますが、うちの園ではブラストチラーという急速冷凍のものがある。そんなに精度が高くなく 5 日くらいが限度です。皆さんの園でもお金の余裕があれば入れるといいと思うが、保健所に許可を得ないといけない。役所から定員を 1.5 倍に増やしてと言われた時に、これまでの調理室では無理で、急速冷凍のお金を出してくれといったことと、急速冷凍をするから前日調理を OK にして欲しいという要求をして、それが可能になりました。ブラストチラーという機械があるが、前日調理が可能なので凝った給食の場合は、　前の日のおやつを簡単にして、前の日に作ってしまう。それを急速冷凍しておくと、当日の調理員が少なくて済む。ただし 5 日くらいしか保存できない。前日調理ができると、メニューが豊富になるのと軽減が出来ます。しかし、1 年くらい持つのは昨日話した鳥海さんのお店のように、急速冷凍と包装も同時にしないといけない。その機械が 1000 万くらいするそうです。日本ではまだ数が少ないそうですが、買ったそうです。経産省などから補助金を申請して買ったようです。急速冷凍の良さは、熱いまま下げられるかに拠るので、スーパーの冷凍とどう違うかと聞かれても、スーパーがどういう冷凍の仕方によって味や栄養が違います。それが変なのを食べるので、冷凍に対するイメージが悪いんですね。急速冷凍の場合は組織を壊しませんので、学校給食でも少しずつ取り入れられているのは、下処理が少なくて済むので、調理員が少なくて済む。それから安定することがあります。本当は大きな工場が必要だと思います。ある保育業者に冷凍工場を作ってくれないかと言っているが、一品でも作ったものを園の希望のところに届けたら、調理員は少なくて済むと思いますし、素材にお金をかけられるかもしれないかなと。今回は安全な食が入っていないが、シェフと話したときに、農家さんを守るためには買わないと、農家がだんだんと減ってきてしまう。作ること、買うことで農家を守る。子どもの健康を守ることにもなる。

—人類の特徴から考える保育—

それからもう一つ動画がある。NHK で「ヒューマニエンス」という、人類についての番組をやっています。パンデミ

ックと人類とか、コロナに拠っての人類の影響の特集の日がありました。この映像でいくつかあるが、アメリカの研究と言って出されたのが、ルーマニアのボルビーの愛着理論を出した研究なんですね。施設に預けられた 1/3 が 2 年間に預けられたうちに亡くなってしまった。十分な栄養と衛星にもかかわらず。ルーマニア政府がボルビーにその理由調べてくれと言って、出した結果がモロトロピー（母子関係）が、なかったからというのを出した。それをアメリカのハリスという人が、ハーバード大学を出て、自宅で研究したときにまず取り掛かったのが、ボルビーの研究の事例をもう一度調べ直した。もしそうなら、母親がいないなら施設以外でも、障害を起こすのではないか。母親がいなくても、立派になっている人が多いということで、その理由ではないのではないかと、もう一度アメリカで研究をし直します。その結果、オールヒューマンコンタクト（人との触れ合い）がなかったからということで、その研究が示されています。今回のコロナの感染のために、ソーシャルディスと触れ合わないことが、かえって死亡率を増すのではないかといわれています。他の理由で赤ちゃんが、手足口病や他の病気になる子がすごく多くなっているんですね。死亡には至っていないが、触れ合いを避けているために起きているのではないかと危惧されています。数日前、コロナによって若い女性の自殺者が増えていると出ていました。コロナの問題どころではないです、それが 8,000 人。コロナだけの理由で自殺した数です。もしかしたら、生活の困窮もあるかもしれないが、多くは触れ合いが減ったから。これらを見るとパンデミックだけではなく、育休もそれを起こしえないと言うことです。親子だけに家にいると、それが外へ出ても、地域に子どもがいるわけじゃないですからね。「公園デビュー」という言葉が死後になってきている。一時期でニュースになったが、今は公園に行っても人っ子一人いない。母子だけで２，３年いたらぞっとします。乳児から預けたらかわそうだし、預かった人は、お母さんの代わりに愛情を注ぐそうではないです。子ども同士の構築に変えないとダメですね。今の話の中で、憲法より重いということで、特別に話しているところがあります。繰り返すように、人というのは、人と触れ合いの中で生きていく生き物です。その手伝いをするのが、これからの保育園の役割です。自然発生的になくなってきているからです。保育園に入ったらいいというわけではなくて、いつ頃から預けたらいいか。それは、家庭環境と地域環境に拠ります。家庭の中に兄弟がいたり、地域もいろいろな触れ合いがあるなら、園に入るのは遅くてもかまわないことがあります。保育があるときから、「保育が欠ける」という言葉が、「保育が必要な」という言葉に変わっています。近くに子ども集団がないからを理由にしてもいいんだと思います。とくに熊本の教育長に言ったのが、地方によって待機児童が減ってきている地域なら、１号認定を拡大して、０からいつでも入れられるようにするべきです。今の法律でも違反するわけではないです。車通りが多くて、子どもを外で遊べないから入れるのも理由にもなるわけですから、子ども集団がないからという理由でもいいんです。そういう意味では、先ほど話した秋田の方が有利です。東京はまだまだ開いていないです。必要な子たちがまだ入れない可能性がある。せっかく作ったのだから、園をつぶすのではなく、新たな役割をするべきだと思います。
京大の総長だった山際さんという人が、コロナ禍でこういう警告をしています。ダンバー数と言って 150 人くらいが人間として信頼できる関係が、脳の大きさと集団規模は比例する。脳が大きくなったのは、集団を大きくしてきただからだが、人類の脳の大きさからすると 150 人くらいが適正規模と言われています。今 SNS でいろいろな人と繋がっているように見えますが、実は繋がっていない。かえって不安定な関係で繋がっていると錯覚してしまっている。かえって孤立感を持ってしまうと危惧されています。兵隊の一個師団も 150 人なのもそうです。私の園も職員を入れて 150 人くらいでした。定員を 1.5 倍にしてくれと言われて、区長に定員を 1.5 倍にすると１７０名以上になるのが、人類が信頼できる関係を超えています。私は、この人数は保証できません。それでもいいですか？と聞いた。
ランバースという研究の中で、人類が把握できる人数が超えている。もしかして指針が、昔の指針に担当制とは言っていたのが、今は特定な人となっているのは、このダンバー数のことを言っている可能性があります。これ以上超え

ると信頼する関係にはならない。保育を提案していること中で、私が考えている保育は、基本的にエビデンスがあります。保育を情緒的に捉える人が多いですが、そこに根拠が必要だろうと思っていて、関わりの中にあります。その時に示したグラフです。脳の大きさと集団の大きさで、比例して人の脳の新皮質の大きさからすると、集団規模が150人くらいと研究されています。これが赤ちゃんにとっても信頼できる特定な人との限界。それ以上は錯覚していると言われています。人類は集団で生きて来て、山際さんが言っていたのが、言語は最近できたもので、それ以前は非言語手段で、人と人が接してきた。それを読み解くのが出来なくなってきているのが、ソーシャルディスタンスとマスクです。それを承知しておかないと、現在は防ぐことが仕方ないにしても、それを取り戻すことをしないといけない。ボルビーの変化・進化から見て、集団を作って大きくしてきたことが証明され、社会的参照というのが起きるのは、赤ちゃんは知らない人の喜んでいる顔と、悲しい顔をする声を聴いて、悲しい顔の方を見るんです。表情と声を一致させていることがわかっています。大人は赤ちゃんと接するときは、顔と表情を一致させる。口で褒めても顔が怒っていては、自分に言っていると思いません。1歳になると、周りの表情を手掛かりに行動する。よく慣らし保育で話をするときに、子ども主体で慣れ保育という言い方をするが、子どもが慣れるためなら半年くらいかかると思いますね。ドイツは慣れ保育は半年かけます。日本は1週間なので、慣らすしかないと思いますね。慣らすためには、人類の特徴を使うしかありません。何で不安がるかというと、知らない場所で、知らない先生が、ここは安心な場所かわからない。本人が気づくためには半年かかるが、周りの表情を手掛かりに行動します。見慣れない行動を思うのは自分が安心した表情を見ることで、ここは安心した場所だと判断するのです。知らない人が来た時に、親は安心して対応しているのを見れば、安心した人だとなるんです。慣らし保育はまず、保護者と1日過ごして、赤ちゃんが過ごす部屋だということを親がまず見せる。先生が親しそうに話す。すぐ赤ちゃんの方に行こうとするが、赤ちゃんが慣れるまでは時間がかかるので、まず親が安心できるようにすることを取ることが大事ですね。あるお父さんと親しく話していたら、赤ちゃんが私の顔を見比べていたが、そのあとに私が通るたびに、私をじっと見ていました。親の顔を見ています。共感も最近、情動的共感と認知的共感があるが、情動的共感の一つが、つられ泣きです。昔は共鳴と言っていました。泣き声につられて、泣いていると言われていたが、自分の泣き声を録音して聞かせても赤ちゃんは泣きません。同じ周波数の声を聴いても泣かないです。相手の悲しい思いが伝わっていることで、つられ泣きは困ったことだと言って、一人の子を玄関に連れていくことがあるが、伝わることは悪いことではないです。慣れている子は先に泣き止みます。安心したことを見て、新しい子が安心し始めることが研究で分かって来ています。認知的共感は、誤信念課題という、人の気持ちで、ピアジェの自己中心性が否定されてきた研究だが、実はもっと早いうちから他者の見方が見えるのではないかと言われています。利他性は、人のためになることで、この研究も面白いです。1歳半の赤ちゃんは知能的にはチンパンジーの3，4歳位なんですね。チンパンジーと赤ちゃんが人を助けるかの実験をした。鉛筆を落とす、届かなくて拾えない。赤ちゃんは拾ってくれ、これは3，4歳のチンパンジーも拾ってくれるそうです。物を持っているからドアが開けられない場合、これを開けてくれるのは人類だけで、チンパンジーはこの助けはしてくれません。人が困っている気持ちを察することが、赤ちゃんからできる研究です。

―イノベーション会議から考える保育―

最近面白いと思っているのが真似ることです。どこでどう真似るかの面白さがあります。私の責任としては、保育メソッドを提案するなら根拠がないといけないと思っています。最近の研究をもとにして、こう言う保育ということを聞かれないとなかなか答えないが根拠があります。皆さんからの質問で学校がどうかということがあります。最近はよくするが実は、学校が今大きく変わろうとしています。大学だけではなく小学校も変わろうとしています。まだま

だ小学校に行くまでは時間がかかるかもしれません。しかし、国はイノベーション会議を開いた。内閣府総合科学イノベーション会議は何年にも渡ってて開いていたそうです。座長は内閣総理大臣で、委員が省庁の大臣、科学技術庁長官が集まってこれからの教育・人材育成をどうすべきかを話し合った。その中の提案が、やれということではなくて、なるべくしていきましょうということだと思うが、この提案の中で言われているのが、OECD が示したがSTEAM 教育。A はいろいろな理由がつけられているが、私は建築を出たが、建築はエンジニアリングに入るかもしれないが、だからといってアートは入ります。数学もアートがあるとか、アートはすべてに入るもので並列の一つに取り出すものではないような気がします。STEM の意味は好奇心や探求心です。サイエンスをベースにして、これからの社会を作っていくことで提案され、学校教育の中心です。STEM 保育があるが、日本で危険なことがあります。これを見るとわかります。大学で文系を取るのと理系を取るのとの比率です。世界の中で断トツ、日本は理系を取る学生が少ないです。これから理系の時代になるにもかかわらず少ないです。人材難で困っています。一つはバイアスがあって、女性が苦手という意識が強く、女性の比率が少ないです。大学で理系を取る女性がアメリカでは、55 パーセントと言われているが日本は 2 割もいないそうです。ピサの学力調査で、科学リテラシーや数学リテラシーは 5 年生では女子の方が高いそうです。女子の方が本当は得意なはずだが、逆転するんです。日本は男性が増えてくるのは多分、進路相談や親が女性は理科をやってもっとか、理系に行ってもという意識が強い。保育士は女性が多いから、理系は苦手だという人が多い。それは化学の思い出すことが多いです、化学式とか。科学は人文科学もサイエンスなので、女性が苦手ということはないです。好奇心や探求心は女性の方があります。保育園で始めるときにとっつきにくいということがあるが、不思議さに感動すること、不思議がることがサイエンスなので、その理屈を言うことではないです。子どもはどうして？と聞きたがるが、どうしてを解説しても意味はないです。私が 1 年生を持っているときに、磁石を同質を反発する面白さを伝えたことがある。それを見た時によく知っている男の子が、それは、同局は反発して、異曲がくっつくんだよと解説を始めた。私が解説して何になるの？いったことがある。そうではなくて、反発したのを何か使えないか？それで考えたのがリニアモーターカーだよといった。いろいろな発明は、理屈を知っているから発明になるのではなくて、不思議さを知ることが発明に繋がるんです。私たちの時代は、STEM は理屈を教えることではなくて、一緒に不思議がること。それは女性が出来ることです。うちのエピソードの中で、私が 345 の部屋を歩いていたら、石がありました。これを子どもに聞いたら、「これは科学だよ。」と答えていました。「なんで？」と聞いたら、「公園を歩いていたら小さい石があって、拾おうとしたら、土の中にこんな大きな石があった、だから化学なんだ」と言った。うちは森口君が科学の担当だが、ある子が「科学見つけたよ、手をたたくと赤くなるでしょ」と言っていた。身近なもの不思議さが次の発明につながるからです。そういうことに対して、学校教育を変えましょうというのがイノベーション会議で、提案されていることなので、よく講演でそれを話すようにしています。例えば、どういう時代になるかについて今やっている教育は、同質性・均質性を目指すために、一律一様の教育、人材育成です。一斉授業をするとか、形式的平等主義、みんな同じペースを目指しています。なので、まずテストをします。測りやすい力を評価し、自らの記憶や思考を頼りに素早く正確に解く力を評価します。昨日の新聞に書いてありましたね。学年学級など縦割り教育の提供。先ほどエビデンスを示したが保育は横断的なんです。大学の先生は教科主義なので、自分の分野の教科の研究なので、他の分野と連携しないんです。トマセロの 9 か月革命と、脳の感受性の 9 か月と同じじゃないと思うのは、私たちだけなんですね。やっている人たちは縦で研究しているので、横断的にものを見ないですね。また、学びや進路の制約をかけるバイアス。女子の文理選択も多様性を重視した教育。そのために、個別最適な学び＋共同的な学び。相反するように見えるが、これからはこの二つです。それぞれのペースで学び、対話を通じて納得解の形成。評価をする力が、新しくは自ら学びを調整し、自ら課題を設定し、

探求心を評価する。昨日の新聞の大学入試がこう変わっています。この改革を大学から始めていこうとこうなり、順に小学校まで下ろそうとしています。そのために社会シームレス、繋ぎ目がない共同体制で社会や専門的な力を入れて、一人一人の特性を重視して、さらに伸ばす体制。そのために子どもの主体性が大事ですね。大人の成功体験や経験にとらわれず、子どもの好奇心や個人の興味関心に応じた進路選択。どうしても親が子どもの進路に口を出すが、自分の体験によって言ってしまう。先ほど言いかけたが、少子化に防ぐことと少子時代にどんな学びをさせるかの一つだが、フィンランドからうちの園に来た時に言われたが、「学力が高くていいですね」と言ったら、「フィンランドは人口が少なく、資源も少ない。ひとりの無駄も出せないのです」と言っていました。少子化時代、人口減少社会では、一人の無駄も出せないと思います。全員が大学教授になるような教育はやめないといけない。少ない中で、役割をもって社会を作っていかないといけない。子ども一人一人の特性を持たせているんですよ。八百屋だって、農家、いろいろな役割を持った人が必要になる。そのために大人の成功体験で進路をコントロールすのではなくて、子どもの興味を持ったところを伸ばす。引きこもりの子が意外と、農業をさせると生き生きすることがあるが、大人が止めてしまうことがある。そんなことを止めようということが提案です。具体的に各部署をこう整理しています。まず主体を教師による一斉授業を、子ども主体の学びにすることは、子どもの理解度や認知の特性に応じて学ぶことです。これが私が言った異年齢の一つの考え方です。これが可能になったのは、同一学年で授業をする、該当学年の学びをする、形式的な平等を止めて、学年を止める学びや学年を遡った学びにしよう。先に行ったり、戻ったりすることが必要だろう。これが異年齢の考え方ですが、学校もこうなっていこうとしています。空間がこれまでは集団行動を行う教室を止めて、教室以外の選択肢を持とう、教室になじめない子が別の場所でも学べるようにする。これは7月に熊本の教育長と対談をした時に、一人ずつにタブレットを持たせるのは、デジタル的授業をするだけではなくて、黒板のあるところで授業をするのを、一人ずつがタブレットを持ったら、どこでも授業ができる。ホールでも体育館でも授業が行える。これは保育でも言えて、昔はピアノでお集まりをしていたので、ピアノのあるところに集めていた。ドイツでは、ピアノは使いません。ギターやアコーディオンのように持ち運べるものを使い、園庭や極端な時はトイレの中で集まっていました。私も1年生を教えていた時に、クラスにオルガンがあったが、ギターを使っていたので屋上で子どもたちと歌を歌っていたことがあります。これまでは教科担任制の下で教科ごとの指導をしていたが、教科の本質の学びと実社会の学びということで、教科と探求、スティームを中心にする。そのためにこれまでの教師はティーチング、指導書通りに計画を通りに教える授業を、コーチングに変える。子どもの伴奏者として、はっきり言って指導はいらないですね。違う計画を作らないといけないと思います。そのために組織も同質均質な集団、いわゆる教員養成学部などを卒業して定年まで勤められることが基本。そうではなくて、これからは、多様な教員集団。発達障害やICTなどいろいろな専門性を生かした教育体制。これは熊本の教育長が改革の中で訴えることです。もとは文科省にいて、ハーバード大学に留学します。ハーバード大学では、アメリカの教師は教える教職課程は半分くらいだそうです。日本の半分ではなくて、職員集団の半分が教師で、残りは発達障害や地域の専門家とかがいて、それらで構成されているそうです。日本は教職課程の人が全部やるのは無理でしょう。無理なので外部委託が始まっています。違うキャリアを持った人に教職員の中に入れていく考え方で、外に外注ではなくて、学校がいろいろな機能を持ちましょうという提案なので、保育園も保育士以外の人を入れてもいいというのが、反対するのは、無資格の人も保育をしていいのかではなくて、他の仕事も求められてくるわけです。悩んだ親の相談などのスタッフも園に入れる加配を求めないといけないです。様々なキャリアを持った人も入れてほしい運動にするべきです。いろいろな機能を持つことが存続することに繋がるわけです。学校教育が提案されています。その中で最後、学校現場の先生方にこういうメッセージを出しています。まず学びは大きな転換期に来ています。子どもたちの学ぶ意欲引き出し、

好きな気持ちを諦めさせない学びは明治以来の 150 年ずっと求めてきたことです。社会構造の変化の中の学びの返還は、これまで蓄積してきたことを形にする大きなチャンスです。このパッケージを推進することで、国として学校現場を支えていきます。また保護者にこういうメッセージを出しています。これらの施策は、大人の頭の中にあるかつて自分が受けてきた教育と異なるため、一つ一つ実現されるにつれ、不安や違和感を感じるかもしれません。例えば、一方的に教えるものから、自分事として考え、因果関係で捉えるような時代を切り開くことが求められます。保護者に不安があるかもしれない。しかし、時代が変わってくるから、ぜひ協力して理解してほしいという言い方をしています。学校に示され始めています。学校がなかなか変えないというよりも、私たちがやっている保育が、学校へ行くとギャップがあると言われてきたことが、学校がギャップを埋め始めています。シンガポールが学校教育をしていますが、それに合った幼児教育が見つからなかったように、私たちがやろうとしている幼児教育がここに結びつきます。大学改革をしていた鈴木寛さんとやろうしたのが、最後に改革するのは小学校かもしれない。だから、大学と幼児教育を挟んで変えていきましょうとした。熊本の教育長は、小学校を率先して変えるんだという意欲を持っていたので、だったら乳児から一貫して学びにしたらどうですかと提案をしました。時間になるが、一つずつ答えても、保育者と違うので事前に見せて頂いた。どんな部分に不安があるかが保育者が考えているような答えにはなっていないが、管理職の答えになってしまったので、その辺りは不満があるかもしれないが、職員レベルでは環境セミナーなどでお答えしますから、皆さんが不安や疑問に持っている部分で、動画を見てもらいました。私が提案する保育の根拠はどこにあるか。その根拠を 4 つに絞って表現しています。具体的な例を出したがさらに具体的なものは、皆さんの自分なりの地域性や施設の在り方によってどう実現していくかは、職員の皆さんと考えていくことが必要だと思います。そこで難しい時は私が皆さんのところで伺って、保護者講演もしますけど、最初に言った現状を把握して、それを分析して実践する。改革をしていくことが求められていく。だからこそ生き残る価値のある施設になるわけです。子どもが少ない、過疎地である、コロナだからは理由になりません。その中でも格差が生まれ、ある意味儲かっている企業があるわけです。儲かるという意味ではなくて、こういう時代だから、必要だと思われる施設にしていかないといけないと思います。そのヒントを得られて、現場でやってみたいと思ってもらえたらこの会を開催して幸いです。新しい時代を作っていく、新しい時代をワクワクしていくことを管理職が率先してなっていくべきだと思っています。まとめになったかわかりませんし、全てに答えられたかわかりませんが、理解して頂けたらと思います。昨日今日ありがとうございました、久しぶりに皆さんに会えて楽しかったです。こういった機会を今後も作れたらと思います。皆様、2 日間ありがとうございました。

本稿は、2022 年 8 月 23 日に開催した GT サミット 2022 の「Q&A」の内容をまとめたものです。

（文責/奥山卓矢）